

環境の持続的維持とランドスケーププログラム

正会員 ○*野上陽子

八景 浮世絵 景観デザイン
ランドスケープ 全体 サステナビリティ

1.1 研究の目的

本研究の目的は、環境維持の手法として「土地のサステナビリティ」を考えることである。その定義は、その土地の魅力を発見し、適正に引き出し、かつ時代の要請に持続的に対応していくことである。

本研究では、サステナビリティに近づくための1つの方法として、「ランドスケーププログラム」を提案する。継承されてきたそのまちの魅力のキャラクタ(特性)を抽出し、時代の流れに応じて、それらのキャラクタの組み合わせをプログラムしていくのである。特に、長い歴史があり、地域の資源が豊富なまちの再生を主眼とする。対象敷地には、横浜市の金沢八景を選んだ。

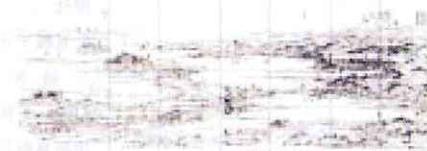
1.2 研究の手法

1.歌川広重・市川芳員らによる、八景を俯瞰した浮世絵を分析し、「金沢の魅力8キャラクタ」を抽出する。2.安藤広重「八景絵図」の中で8つのキャラクタがどのように用いられているか、相互関係を分析する。3.魅力のキャラクタの今昔比較をし、問題点と可能性をまとめる。4.これからの金沢八景に向けて、キャラクタの再構築による再生案を提案する。

1.3 既往研究からみた本研究の位置づけ

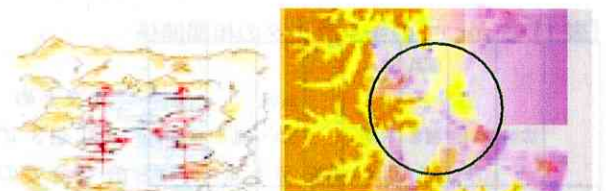
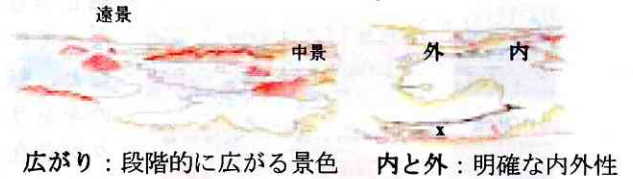
従来の八景研究は、浮世絵の構図やエレメントに注目し、八景それぞれの景観特性を、現実の都市風景の中にパーツとして活かしていく視点が主流である。本研究では、八景式の景観構造を分析することで、まち全体に、調和ある都市デザインを展開する手がかりをさぐる。

2.1 金沢八景の魅力分析Ⅰ：魅力8キャラクタ



上の3枚の絵をもとに、距離、描かれている対象の大きさ、面積

のバランスなどから、金沢八景の景観構造を定性的に分析し、八景の魅力を8つにまとめた。



波形的な風景の重なり・水辺の循環する視点：視点と視界へのソフトランディング

2.2 金沢八景の魅力分析Ⅱ：魅力8キャラクタ相互関係

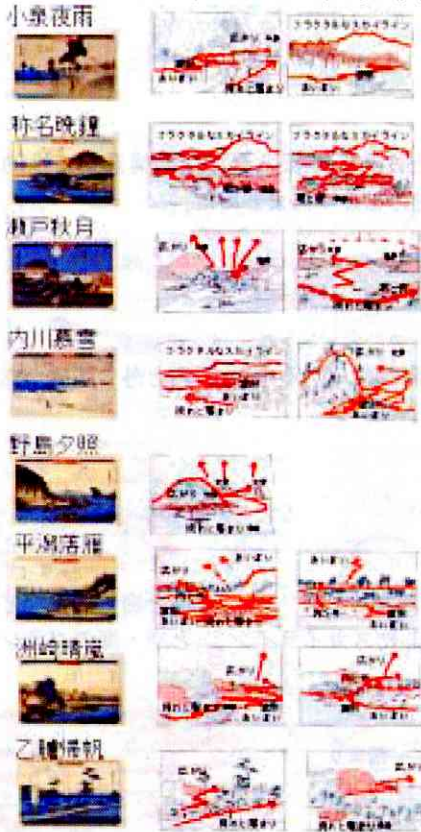
次に、八景内のある地点で、8つの魅力キャラクタがどのように用いられていたかを分析した(図1、表1)。

「8つの魅力キャラクタが認識し易かった」こと、「明確な相関関係をもつキャラクタ同士の組み合わせ」という2つのバランスで、かつての八景全体の風景が構成されており、これが、かつての八景の Landscape Programme の内容である。これはきわめて自然発生的だった。

3 魅力のキャラクタの今昔比較

ここでは八景の今昔比較を行い、問題点を整理し、

八景再生への可能性を探る。既述の各キャラクタについて、図2、3にあるように今昔比較と、現状でキャラクタを活かす方法と、具体的な場所を検討した。



【図1】「八景絵図」に見る8キャラクタの用いられ方

その結果、現在の金沢八景では、魅力のキャラクタが認識しづらくなっていること、魅力のキャラクタが点在しており、魅力か切れ切れの状態になっていることの2つが、問題点として抽出できる。前者は、キャラクタの関係性が複雑化した、と言

い換えることができ、結果は表2にも現れている。

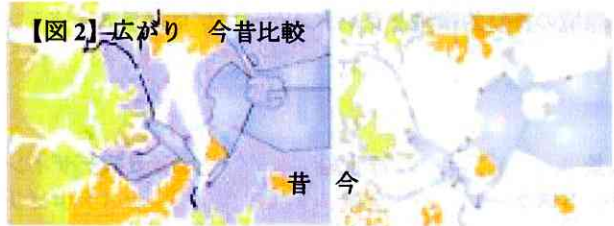
【表1】 かつてのキャラクタの相関関係

	広が り	内と 外	流れ と 溜まり	スカイ ライン	波形	あい まい さ	粗と 密	循環す る視点
広が り	+	●					●	
内と外	●	-	●	●				●
流れと 溜まり		●	-	●				
スカイ ライン		●	●	-				
波形					-	●		
あいま いさ						●	-	
粗と密	●						-	
循環す る視点		●						-

● 相関性 低 ● 相関性 中 ● 相関性 高

4 まとめ

図2,3の手
法で全てのキ
ャラクタにつ
いてキャラク
タ活用の可能
性を図にして
いくと、(図
4)金沢八景の
魅力的場所は、
もはや8つに
はとどまらない
ことが判明
した。8つの
魅力のキャラ



【図2】 広がり 今昔比較



クタに出会える場所は、八景のまち全域に散らばっている。1つの場所が複数のキャラクタの役割を担っているのだ。これまでは、8つの場所を決めて、拠点開発的に八景再生を図るプランが出されてきたが、ここではそれに無理があることが示された。代わって、今後はかつての八景の魅力構成していた8つの魅力のキャラクタを強化し、キャラクタ同士の関係を現在の文脈で再構築していくことが前提になる。キャラクタを享受できる場所をつくり、それらをネットワーク化して、常に八景全体の視点から再生を考える必要がある。

まず、魅力のキャラクタを認識し易くすることが、土地の魅力を引き出す第一歩である。そして景観を切り口に、「魅力の織物八景」として、全体から再生を考えると、まち全体で、調和の取れた都市デザインを展開することが可能となる。

参考文献 1 金沢区制五十周年記念事業実行委員会(2001)『図説 かなざわの歴史』県立金沢文庫 2 金沢文庫『金沢八景—歴史・景観・美術—』

	広が り	内と 外	流れと 溜まり	スカイ ライン	波形	あい まい さ	粗と 密	循環 する 視点
広が り	-	●		●				●
内と外	●	-	●	●				●
流れと溜 まり		●	-	●	●	●		
スカイラ イン	●	●	●	-		●	●	
波形			●		-	●		
あいま いさ			●	●	●	-		
粗と密				●			-	
循環す る視点	●	●						-

【表2】 現在・可能性のあるキャラクタの相関関係

*東京大学大学院 工学系研究科

*The University of Tokyo